

第4回 東近江市市民協働推進委員会 議事録（要旨）

開催日時 平成24年10月12日（金）午後19：30～21：30

開催場所 東近江市役所 別館 大ホール

出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰（委員長） 森田初枝（副委員長） 北川久補、河島修、楠神渉、端信子、廣田喜紀、井上泰夫、井尻久嗣、土井正義、大林正平、北川陽子（欠席：上田祐子、小倉昌和、川戸健一）

市民協働推進連絡会議委員 田中浩、三上俊昭、久保文裕、村田淳子、井口みゆき、藤井盛浩（欠席：福井健次、西澤静朗、高山幸生）

事務局 まちづくり推進課 黄地、山田、今村

支援コンサルタント （株）ジャパンインターナショナル総合研究所

傍聴人数 2名

議事

- 1．開会のあいさつ
- 2．オリエンテーション
- 3．ワークショップ
- 4．発表
- 5．総括
- 6．閉会のあいさつ

会議録

1．開会あいさつ

（委員長）

今日は、4回目の会議となります。2回3回とワークショップをやってきましたが、この会議は、予定調和型の、取りあえず意見を聞くという、そのようなものにしたくないというのがあります。

今日は、皆さん方の言葉やストーリー、思いをきちんとかたちにしていくため、皆さん方の思っていることを出し切っていただききたいと思います。そこから議論を構築して、最終的に条例や計画をつくる作業につなげていくこととなります。このメンバーから出てきた意見を、大事にしていきたいと思っています。皆さん方の経験や今までの出来事の中での、些細なこと、小さな出来事が、実はこの作業を進める上での宝となります。ぜひ、そういうところを忌憚なく出していただききたいと思います。

2．オリエンテーション（ジャパン総研）

【資料1，2，3に基づき説明】

資料1で、本日の全体のスケジュールとその内容について説明。

資料2で、本日の委員会では、何を議論して、どこに向かっているのか、目的を明確にするため以下の3点について内容説明。

1．現在までの委員会の流れと本日の検討内容（資料2 2P～9P）

第1回目では、講演会等により、「協働」とはどのようなものかという共通認識を持ってもらう機会とした。

第2回目では、委員の皆さんが「協働」についてどのような認識をもっているのか意見交換を出し合い、共有した。

第3回目では、東近江市で「協働」する上での強み・弱み（現状）について共有した。

本日第4回目では、「協働が根付いた東近江市」ってどんな姿だろうという将来イメージについて話し合う。

第5回目では、将来像に向けた方策について話し合う予定。

第6回目では、中間報告として、ワークショップはいったん終了し、今までのまとめをする予定。

第7回目では、これまでの議論を基に、条例骨子、計画骨子について検討をする予定。

2．協働・参画の考え方の再確認（資料2 10P～12P）

3．前回の意見のふりかえり（資料2 13P～22P）

前回意見として、

「行政と市民の強みを伸ばし、いかに弱みを克服していけるのか」が重要で、弱みと強みが表裏一体になっているケースや、行政と市民で分けにくい部分もある。しかし、議論の方向性としては、強み・弱みのギャップをどう工夫していくかを今後の「協働」を考えていくヒントにする。また、資金面についても、今ある資源を使ってどうお金を回すかなどの工夫が重要になってくる。

という意見が出ていた。

以上のことをふまえながら、今回は、「協働が根付いた東近江市」ってどんな姿だろうという将来イメージについての議論を進め、その後キャッチコピーも考えていく。

3．ワークショップ

【各グループでワークショップを開始】

テーマ：「協働が根付いた東近江市ってどんな姿だろう」という将来イメージについて話し合う」

テーマ：将来イメージ

キャッチコピー

もちつもたれつ お互いさま！！

住民同士の共通認識ができている

行政と住民との認識

行政との信頼関係ができている

市民の声が活かされたまちづくり
(ボトムアップ)

職員さん同士の連携をもっと上げれば事業がしやすい

市民の声が活かされている

免許返上後の交通手段

交通手段など共に助け合っている

共に助け合っている

各種団体の動員ではなく、自主的に参加してほしい

イベント・お祭りなど、サポートを行政がしている

子育て講演会などに多くの若いお母さん方が参加していただけたらいいな...

イベント・祭りなど楽しい活力のある町

イベント・行事に主体的に参画している

隣近所の人を見守りはできる範囲で市民同士のできる地域になっている

災害時に備えた個人情報の提供

一人暮らしになっても、自分の家で安心して生活できる

後見人制度が普及している

お互いに安心している

主体的に市民が健康づくりに取り組んでいる

健康に不安のない町
(病院・健康増進活動など)
在宅介護

介護予防のための事業は、市民が自ら計画し実施できるようになっている

市民と一緒に健康づくりに取り組んでいる

気軽に立ち寄って、井戸端会議ができるコミセンの場(居場所)

コミセンの整備や空き家の整備など集う場
気軽に集える

自然(森や川など)いっぱい散歩路

行政が市民の事業に支援している

地域の人ですぐに助けてくれる

行政が継続的に支援してほしい

テーマ：『協働が根付いた東近江市』とは？

キャッチコピー
「今日どう?」
人・物・情報を活かした誇りあるまちづくり

市職員や住民の活動を報告しあっている

同じ関心を持った人と出会える

市民と職員が顔をあわせ、共に汗をかくシーンが多い

市情報(補助金等)をセンターなどで自由に知る事ができる

市職員と住民が交流センターで情報(意見交換)している

東近江市の“看板”がほしい

東近江市の明確なビジョンがある

東近江の「歌」「キャッチコピー」がある

「私は東近江市民」だといえるまちにしたい

“合併した東近江というイメージ”を市民が共有できている

東近江市がめざしているまちづくりの目標を全市民が共有している

「東近江」の目標が市民・行政が共有できるものがあれば...

地域の良さを認識し、自信と誇りを持っている

誇り

活動と名前がつながる関係性のあるまち

情報の集まる拠点があり、人々が自由に交流している

必要な情報がすぐに見つけられる

まちづくりに関する情報が全て一ヶ所に集まっている

民間団体が集える場所があり、横のつながりが広がっている

関心のあるまちづくりについて、行政・市民が話し合える場が常設されている

市民活動センターが設置されている

市民がしたいことを相談できる協働の窓口がある

人的資源

全市民がまちづくりに強い関心を持っている

市民が自主的に活動するようなグループ・NPOがたくさん存在している

市民活動の場にプライベートの職員の姿がある

身近なところに何でも相談出来る窓口(行政・市民)がある

人と人、情報を結びつけるコーディネーターとなる人(行政・市民)がたくさんいる

地域活動に多くの若者が参加している

人材バンクが整備されている

地縁団体の理想

小さな区域で「お互い様・おかげ様」の声が聞こえる

ご近所同士でほとんどのことが解決できる風通しのよいおつきあい・助けあいがある

風通しのよい自治会組織になっている

しくみづくり

世代を超えた交流のあるまちにしたい

中学生や高校生の意見が通りやすい仕組みになれば

市民の発想をとり入れる行政の仕組みがある

域・域・市民活動サイトが大人気(ここから始まる)

情報の場を活かす場づくり

「今日どう?」と言えるまちづくり

みんなでお互い様・おかげ様

共汗できる

地域の魅力が結びつくまち

東近江の歴史を作ろう

人・物・情報をフルに活かした誇りあるまちづくり

協働の成果(例)

イベントなどに参加する時は参加費を支払っている

まちづくりがビジネスモデルになる

住民がまちのため、投資できる

図書館の多角的な利用ができる

学校などをいつも開放している

キャッチコピー

イメージ

それぞれの色を織り成す町 東近江

虹色に輝く 東近江

森	虹	光合成	葉脈	つながり	ボーダレス
---	---	-----	----	------	-------

対 等

意識を高める WS
意見が言える
気付き
自ら動く

自主・自立

自分を持つ
役割を持つ
生きがいを持つ
どの年代も生き生きしている
誇りに思う
自分のまちが好き
評価される

相互理解

まちづくりに対し、行政職員が理解し、参画されている	行政の役員や企画に民間の人材がもっと入る	個人として認められる社会
垣根をとる	民間事業所のCORとの市民協働の結びつきができています	
いろいろな団体が互いに活動を知っている	民間の企業も非常に地域のことを考えてくれている	
市からハチャメチャな提案がもっとあってもいい		
市の一体感がある		

活発な活動

交流の場 機会がたくさんある	ボランティア・NPOが活発になっている
活動グループの交流がさかん	病気や障害等のハンディを持った人が、主体的に協働に参加できる
気軽に使える公共の場	高齢者が協働の輪の中で働く時間がある
	地域社会に対して、関心を持っている人が多い社会

情報公開

情報 発信 ← → 受信
市民同士で意見が集約できる社会
協働のニーズとニーズがよく分かっている
空き家情報

子育てするのに心が疲れなから引っ越したくない

個々を活かした集合体	心が豊か	夢がある
------------	------	------

『協働が根付いた東近江市』

4 . 発表

(Bグループ)

「協働」が根付いたイメージを話し合う中で、いったい東近江市って何か？ということ考えた時、一言でいうとビジョンやイメージがあまり見つからないことに気づかされました。それと同時に、そこが合併後7年しか経過してない市にとっての課題ではないのかとも。これから「協働」を進めていく上で、東近江市民としての誇りや、礎、根底になるようなものがベースとして欲しい、ということが意見として多く出ていました。

ひとつの例ですが、現在、東近江市は1市6町で7つのまちが集まっており、それぞれのまちに個性はありますが、東近江市が一体となった誇りが欲しいという意見も多くありました。その結果、人的資源、とりわけ若者も市民としての市職員も色々な市民がまちづくりに関心を持って活動するというのが理想的な姿です。今はまちに関心の少ない方が多くいます。人的資源、人材バンクが活動できるひとつの手段が情報です。欲しい情報がすぐに分かって、それを活用する意味で情報が集まる市民センターみたいな拠点が良い。人がいて情報があり、一体となった結果、そこから同じ関心を持った市民の出会いがあり、その交流が新しい行動につながり、市民と職員の情報交換や、一緒に汗をかくというシーンが多くできてくる。それが「協働」の姿ではないのかという意見が出ていました。

「協働」が根付くためには、「市民と職員が話し合える場づくり」や、「市民の発想が行政の施策に取り入れられる手段」、「大人気の市民交流活動サイトがある」というような仕組みづくりが欲しいというまとめとなりました。

「協働」の一例として、市民がまちづくりをしようとした時、行政がすべてお金を出すのではなく、自分でまちづくりに投資できるような姿ができればよいのでは。そのことがビジネスモデルになれば良いし、結果としてコミュニティビジネスが多く育っていくようなまちづくりをしていけばという意見がありました。

もうひとつの根底にある、地縁団体、地域の団体の理想型ですが、狭い地域では、「お互い様、おかげ様」で声を掛け合って、自分達にできることは、自分達でしていける姿が理想なのではないかという意見でした。

最後にキャッチフレーズですが、ベースにあるのは、「みんなでお互い様、おかげ様」「協働」をもじって「今日、みんなどう？」と声を掛け合うまちで、『「今日、どう？」と言いながら、みんなで困ったときには、ともに共汗(きょうかん) 共に汗をかけるまち 東近江』そんなまちづくりが、今日のテーマにあるイメージです。その心として、物、情報をフル活用して、市民が誇りのもてるまちづくりができたらという意見でした。以上です。

(Cグループ)

まず、理想の東近江市の将来像として、ボランティア、NPOの活動が活発であり、各グループの交流が盛んで、気軽に使える公共の場があり、交流機会が増えると、相互の理解が深まり、個人として認められ、民間企業も非常に地域のことを考えている市民生活というものがあります。

市からも色々な提案があって良いし、市の一体感があり、市民、市職員、色々な人材が入り交じって、垣根を取り払い、みんなが個人として相互の理解をしていけるような社会のためには、情報発信、情報公開があり、市民が情報の受信をできるための場があり、もっと市民の意見を集約できる場所があることが必要です。一番大切なことは、市民の自主、自立の精神であり、それぞれが役割を持ち、生き甲斐を持ち、どの年代も自分達の得意とするところを活かせるよう、認め合い、評価しあえる東近江市であって欲しいという意見でした。

それには、何よりも、市民が個々に対等であることの意識を高め、ワークショップや市民が意見を述べる場が必要です。その中で自らが気づき、自らができることを行動に移していけるような社会になれば良いという意見でした。

これらの意見が漠然としていますので、先程申し上げた意見を実現させるには、具体的にどのようなことが必要か、今回は議論を深めたいと思います。

一番大事なのは、市民個々の意識を高め、この議論に参加している人だけではなく、市民全員が個々に、幸せで、心豊かに、夢のある生き方ができるように、個々を活かした集合体になれるような東近江市を目指していきたいという意見でした。

キャッチコピーとしては、森であったり、いろんな色がハーモニーを奏でる七色の虹であったり、光をたくさん浴びて、光合成をして生き生きするような葉脈であったり、そのことがボーダレスにつながっていくというイメージで「それぞれの色をおりなすまち、東近江」で意見がまとまりました。以上です。

(Aグループ)

Aグループの平均年齢はあまり高くはありませんが、「高齢になっても安心して暮らせるまち」というところから、意見が交わされました。

色々な家庭の事情がありますが、共に助け合うまちになればいいのではないかと。免許証を返上したら、どうして移動を確保すればいいのか？気軽に乗せてもらえるような関係づくりができれば良いし、共に助け合えるようなまちづくりができればという意見が出ていました。また、将来ひとり暮らしになるかも知れないし、そんな時でも安心して暮らせるまちになれば良いし、災害にあっても隣近所が声をかけてくれて、お互いが安心して暮らせるまちになればという意見が出ました。さらに、安心して暮らしていくには、自分自身が健康でないといけいないので、健康の維持とか、介護のお世話にならないようにとか、行政の事業には関わってもらえますが、市民も一緒になって健康づくりに取り組んでいけるようなまちになれば良いという意見も出ました。

ほかに、それぞれのまちで、講演会があったり、お祭りがあったり、色々な行事がありますが、市民が主体的に参画できるようなまちになればという意見や、まちづくりの一環として市民が自ら遊歩道の整備をしたり、井戸端会議のように気軽に集まれる場所をつくろうと頑張っているのが、是非行政も継続的に支援をしていただきたいという意見もありました。

「協働」ということを考えたときに、市民の声が活かされており、行政の職員相互の縦割りではなく、仕事上での連携がうまくとれているようなまちであればという意見が出ました。

キャッチコピーとしては、市民と行政の信頼関係があり、共に、お互い、支援、一緒にというキーワードから、『もちつもたれつ、お互いさま！！』となりました。以上です。

5．総括

（委員長）

大変面白く聞かせていただきました。こんなに幅広く意見が出てくること自体が、大事なことです。今日は、このテーマでたくさんの意見が出るのかどうか、議論しにくいのでは、と少し心配をしていました。

非常に面白かったのは、Cグループでしたか、キャッチフレーズで「森とか、水とか、虹とか、光合成、葉脈」素晴らしいです。人々が生活をしている感じが出ていました。

市民生活は、やはり行政だけの議論では出てこない面があります。日常の生活の中から出てくる強さが大切だということを感じました。

大きなところからは、自治のとらえ直しとして、私がこの間ずっと言ってきましたことに繋がっていくのだと思います。若い人をどう巻き込むのだとか、すそのをどのようにして広げるかということも、共通する課題だと思います。

若い人達は、このようなことにもの凄く興味を持っています。しかし、繋がっていません。私の大学で、東近江出身の学生達も京都市内でいるんな活動をしています。なぜ地元で繋がらないのかということにも少しヒントがあるように思われます。

東近江では、ビジョンがないといわれますが、ビジョンはあります。まちづくりの総合計画は行政にあります。市民側からすると、無いと思っていることが多いです。ボトムアップ型の政策になっていないので、無いと思っているわけです。衝撃的な事実です。要は、行政と市民の間でビジョンが共有されていないわけです。どのような計画にする、私達市民の計画だと思えるようなものにするには、行政が市民と一緒に作り上げていくプロセスがないと、一体感がなく共有がされないことになります。一緒に作ることの大切さを先程からの議論で感じました。

「誇りの持てる東近江市」という意見がありましたが、市民と行政が一緒になって作り上げていく課程で、誇りとか、オーナーシップとか、これは私達のものだという、

キーワードが出てくるように思います。

志を同じにするような人達が出会う場とか、情報を共有するような場、つまり情報の交差点があればという意見は、グループ全体で出ていました。おそらく、皆さん方が言っておられるのは、情報の発信や共有することと同時に、何か課題の共有みたいな意味合いが強いのではないかと、感じました。単なる情報の共有ではなく、市の中で困っている人や、問題がある人がいると、問題や課題を共有できるような場があって、そこに色々な人達が集まって、情報がつなぎ合わされて解決していくようなものが、まちには必要なんだと思います。今は、役所が代弁をしているところがありますが、細かく、気軽に持ち込めるような場や、インターネット空間になるかも知れませんが、「場づくりという言葉や、地元とサイト」に込められた意味合いがあるのではないかと思います。

後ひとつ、「投資」というキーワードが出てきました。大事なキーワードで、お金の循環をどう作り出すかという時に、投資という概念を市民自身が持ち込むことが、社会的には社会的責任投資ということがいわれています。金融工学をいじくって暴利をむさぼるようなことがおこっています。非行な人達の投資ではなくて、自分達のまちを良くしていこうという投資のあり方が、企業にも求められ始めています。市民同士が投資をして、元本は保証されるが利子はつかない。みんなが投資をすれば、利子の代わりにみんなが幸せになる。これから先、投資という文脈の中では出てくるだろうと思われます。今日の議論は将来の姿を先取りした議論ですし、このような仕組みがどうすれば東近江で回せるのかを考えても良いと思います。

また、「市から、はちゃめちな意見が出る、提案が出る」というのがありましたが、大事なことです。役所は失敗が許されないという暗黙の了解があって、色々なバリアを張るわけです。もっと失敗を恐れずみんながトライできるような環境をどう作るか、市役所のポテンシャルをどう引き出すか、「協働」の非常に大事なところです。もっといえば、市民の大事な役割とも言えます。役所を攻撃しても、実は何も生まれることがなく、どんどん窮屈な人達になります。言葉は悪いですが、せっかく市民が雇っている人達だとすると、役所の人達の能力を引き出して、生き生きと仕事をしてもらえば、東近江のためになります。だから良好な関係性をどう作っていくのかが大切になってきます。「市から、はちゃめちな意見がでる」という言葉に面白みがあるというのは、そのことです。

市職員の意識を高めるとか、市職員が気付いたら市民活動の現場にいたという話がありました。市民と行政の立つ位置を変えていく作業だろうというのが、皆さん方の意見や自治のあり方を変えていくという文脈で凄く表現されていたと思います。

今までの議論に出てきたことが、ひとつでも実現してくると、ワクワクしませんか。やはり変わるのではないかとか、若者も関わるのではとか。皆さん方から、色々なアイデアを出してもらいます。次回は、もう少しこれを具体的にどうすればできるのかということ、落とし込んでいきたいと思っています。単なる夢物語であれば、妄想の世

界ですから。これで終わったら「楽しかった」で終わってしまうことになり、何も動きません。それでは、皆さんに集まって議論を戦わせてきたことが無意味になってしまいますので、具体的なケースをモデルにして、実現できる方法を、その仕組みを考えていきたいと思います。そのプロセスとして、計画に落とし込んでいく作業になります。

皆さん方から出してもらったものは、行政計画として行政が引き取る部分と、行政に頼まないで自分達で仕組みを作ろうという部分が当然出てくると思われます。すべてを行政が引き取る必要はありません。例えば、「投資」の仕組みを作ろうとすれば、金融機関と一緒にあって、作ってしまえばいいわけです。

今回は、少し掘り下げていく中で、住み分け論が出てくるかも知れません。どうすれば、現実的にできるのかということを考えていきたいと思います。

6．閉会あいさつ

(事務局)

今回の開催は、11月15日(木)19時30分から東近江市別館大ホールにて第5回目の委員会を開催いたします。

12月は、中間報告ということで、12月20日(木)を予定しています。

本日は、大変長時間議論していただきありがとうございました。これで、第4回の委員会を終わらせていただきます。